P038

クロムツ幼魚の成長に伴う生息海域の変遷

○糸井史朗・湯浅航平・小高純平（日大生物資源）
野田勉（水研セ宮古）・明神寿彦（高知水試）
髙井則之・吉原喜好・杉田治男（日大生物資源）

【目的】世界で3～4種知られているムツ属魚類のうち、日本列島近海にはムツ *Scombrops boops* およびクロムツ *Scombrops gilberti* が生息している。一般にムツは、幼魚期を沿岸海域で過ごし、成長に伴って深場へと移動することが知られている。クロムツも同様な生態を有すると考えられているが、その詳細は明らかではない。これまでに我々は、クロムツの幼魚が岩手県沿岸で主に観察されることを明らかにした。そこで本研究では、岩手県沖で認められるクロムツ幼魚の動態について調べた。

【方法】2008年4月から2009年5月にかけて岩手県宮古市沖の定置網およびトローリングにより採捕したムツ属幼魚を供試魚として用いた。体長および体重を測定後、筋組織から全DNAを抽出し、既報のミトコンドリアDNAを対象とするPCR-RFLP法により種同定を行った。

【結果】採捕されたムツ属幼魚の種同定を行ったところ、2008年10月から2009年1月に定置網および2009年1月から2月にトローリングにより採捕された幼魚はクロムツと判別された。定置網により採捕された個体の平均体長は、127 mm（2008年10月）から179 mm（2009年1月）に増大していた。また、トローリングにより採捕された個体の平均体長は、158 mm（2009年1月）から189 mm（同2月）であった。一方、個体数は少なかったものの、2009年1月から2月に定置網およびトローリングにより採捕された個体の中には、ムツと判別される幼魚が観察された。本研究の結果は、岩手県宮古市沿岸のクロムツ幼魚が体長160～190 mm程度に成長する1月から2月にかけて深場に移動することを示唆する。また、当該海域がクロムツ幼魚の主たる成育海域であることが示唆される。